委員会行政視察報告書

大崎市議会　調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	議会運営委員会
委員名	佐藤弘樹、小嶋匡晴、藤本勘寿、早坂憂、中鉢和三郎、只野直悦、小沢和悦
日時	令和７年１１月１８日（火）～１９日（水）
視察先	１　富山県黒部市　２　富山県南砺市
出席者（説明者）	１　黒部市議会議長　成川正幸、黒部市議会議員　中野得雄、黒部市議会議員　中村裕一、黒部市議会議員　柳田守、黒部市議会事務局長　川添玲、議会事務局議事調査課課長補佐　徳本しのぶ、議会事務局議事調査課主事　前原健志郎 ２　南砺市議会議長　石川弘、南砺市議会　議会運営委員長　竹田秀人、南砺市議会　決算予算特別委員長　水口秀治、南砺市議会　議会改革特別委員長　川原忠史、南砺市議会事務局主幹・局長補佐・総務係長　松本孝史、南砺市議会事務局主幹・議事調査係長　安田圭子

2. 視察内容

視察項目	１　議会活性化の取組について ２　事業評価に基づく提言について、市民と市議会の意見交換会について
視察内容 【質疑応答】	**１　議会活性化の取組について** 大崎市と姉妹都市である富山県黒部市では、議会をより活性化し身近な存在とするために、以下の取組を実施している。 （１）議会報告会・意見交換会 黒部市議会では、市民との対話の場として議会報告会や意見交換会を継続して実施。 現状の課題として、「参加者の確保が難しい」「参加者が毎回同じ顔ぶれになりがち」「参加者の年齢層が偏っており、若年層の参加が特に少ない」との課題が見られる。 令和６年度より、市内唯一の高校と議員の意見交換会を実施。意見交換会で出た意見に関しては、議長を通じて市長にも届けられ、「言いっぱなし」とならない工夫が見られる。 （２）手話通訳の導入 議会のやり取りをより多くの市民に伝えるため、必要に応じて手話通訳を導入している。情報アクセシビリティ向上の観点からも先進的な取組であり、聴覚障がいのある市民の議会参加機会の拡大に寄与している。 **２　事業評価に基づく提言について，市民と市議会の意見交換会について** ■概要

南砺市議会の議会活性化の取り組みについては、平成２６年に南砺市議会基本条例を制定し、議会報告会の開催、本会議一般質問の一問一答方式の導入、議決権の拡大、等を経て、平成２８年に基本条例の検証を行った。達成度について５段階評価を行い、結果を踏まえて、議会の活性化に関して取り組むべき事項を明確化し、次回の検証に向けて成果目標と数値目標を設定した。

その後はタブレットの導入、災害時行動計画の策定、議員間討議の申合せ策定、市議会に関する市民アンケート調査の実施、決算予算特別委員会の設置、議会基本条例の一部改正、通年議会の導入、議会だよりのアプリ配信、会議のインターネット中継・ケーブルテレビ放送、等幅広く活動を展開した。

事業評価については、決算予算特別委員会の流れに準じ、年間のスケジュールの中で効果的に進められていた。二つの委員会をそれぞれの部会とし、４月に評価を行う事業を部会毎に議論し、取り扱うものを選定。当局のヒアリングも行いながらとりまとめ、全体委員会で中間報告をして確認と共有を行い、当局が予算要求を行う１０月の中旬を目処に提言の提出をしていた。この流れによって新年度予算への反映を狙い、翌年２月中旬の議案説明会でどんな風に提言が反映されたかの確認も行われていた。提言を行うだけでは無く、その進捗を議会としてしっかり確認することで緊張感を保ちながら事業設計が行われている事は明白だった。

事業評価については専用のシートが用いられ、市民ニーズ、市が行う必要性、費用に見合った効果、目標の達成状況の４つの項目についてそれぞれ点数をつける方法で評価が行われていた。委員別評価数も明記され、どの様な傾向があるかもわかりやすく、また部会の評価はその点数を単純に平均化するわけではなく、各部会員の議論によって結論が導き出される方法だった。その事業をどの視点から見るかで各部会員の判断が変わるため、評価の視点について話し合うことも重要という話だった。

市民と市議会の意見交換については、平成２６年から開催され、実施会場数も毎年見直しを行いながら試行錯誤し、コロナ禍においても延期などをして工夫をしながら開催していた。テーマについては「庁舎再編」や「議員定数」など比較的重いテーマについても実施され、参考にしてきたという。我々の議会との違いは、回答を作成するだけで無く、それぞれの質問に対して①調査・協議事項とする②当局に確認する③回答どおり④その他と今後の対応についても明記している事だった。平成３０年からは地元の高校生との意見交換会も実施され、議会傍聴後に意見交換をする形をとっていた。テーマとして①高校生活での困りごと②魅力的な南砺市にするために何が必要か③将来の夢や進路について④フリートークとし、若い世代の声を幅広く受け止めるための工夫も見られた。今後は出前講座なども取り入れて、より議会が若者にとって身近な存在になるように努めたいとの事だった。

【質疑応答】

	問：事業評価について、議員によって評価が様々あり苦労もあると思うが、課題はあるのか。 答：実際に評価が分かれることが多い。意見を共有し、合議制の中で部会長が落としどころを見つけていく。間を取ることもあるが、議論をすると理解が深まり、意見も変わってくる事が多い。部会の評価は平均点ではなく、部会のまとめを全体会で議論し、中身が変わることもある。 問：拡充などの５項目について、議会として検証もしているのか。 答：事業評価へ意見を出したものについては、予算審議の前に執行部から説明をもらっており、その場面で確認をしている。 問：提言書そのものは議決をしているのか。 答：していない。全体での共有による総意として議長名で出している。各部会で決定し、全員協議会で発表し確認という流れ。 問：同様の事を行っている自治体は他にあるか、参考にした事例は。 答：横須賀市議会が有名で、我々も参考にした。 問：議員定数について複数回意見交換会を行っているが、その時出た意見をもとに定数を決めているのか。 答：市民からの意見は賛成、反対、増やせ、減らせなど様々あり、まとめることは難しい。市民の意見は参考にしながらも、あくまでも議会側からの提案である。 問：事業評価を行ってきた中で、実際に廃止された事業はあったのか。 答：これまでは１件のみ。廃止とまではいかないが、大きくやり方を変えることになったものは複数ある。
考　　察 【所感・課題・提言等】	1　地方議会は、いずれの地域でも「参加者の固定化・高齢化」「意見交換会のテーマ設定の難しさ」などの課題と、それに対して濃淡はあるものの似たようなアプローチが見られる。特に高校生をはじめとした若い世代からは、「（政治）参加することによる自分へのメリット」がより強く求められる印象であり、各意見交換会の参加者への還元がこれまで以上に求められると考える。 　富山県黒部市の取組では、高校生との意見交換で出た意見を議長のリーダーシップの下で執行権者に伝え、その結果までフォローしているとのことであり、これは当市議会でも早急に取り組むべきと考える。 2　担当頂いた議員各位からの説明は非常に熱が籠もっており、これまで誠心誠意活動されてきたことが強く伝わる素晴らしい説明だった。事業評価については項目の選定自体非常に難しいものであり、タイミングを逃すと効果が薄くなるものもあることから、慎重に議論が行われているようだった。その中で決算予算特別委員会が立ち上げられ、この名称についても「決算があり、その内容を踏まえて予算がある」という意味が込められていることが明確にわかると感じた。もちろん、予算提案の時期については１年度のズレが生じる（例として５年度の決算審査を行った翌年の予算は７年度のもののため）が、決して事業

	評価は無駄では無く、議会と執行部の緊張関係を保つためにも必要な事業と判断した。部会での決定をただ了とせず、全体会で覆すなど、様々な視点から議論されている事がわかる説明だった。事業評価については大崎市議会でも取り組むべき内容と感じたし、政策提言サイクルなどと並行して議論し、市民福祉向上のためにどんなスタイルで行う事が効果的かを考える必要があるだろう。 　意見交換会については、どの議会も抱える悩みは同じだなと感じた。参加者の固定化、テーマのマンネリ化、会場のバランスや固定化など、大崎市議会の話を聞いているようだった。その中でもグループ対話を取り入れたり、市内の高校生との意見交換を実施するなどの工夫も見られ、どうすれば関心を持ってもらえるか、若者の意見を吸い上げられるか悩みながら開催されていた。 　そもそも、意見交換を行うことが目的であってはならない。なぜ意見交換を行うのか、行う事によってどんな効果を求めるのかを改めて明確にし、そこから得た意見をどんな風に生かしていくかを具体的に詰めて行かなければ自己満足になる。だからこそ参加者も減るのでは無いか。参加者が多ければ良いという話では無いが、「目的意識」の重要性を再認識する視察研修だった。

以　上

令和７年１１月１８日（火）
〔富山県黒部市〕

令和７年１１月１９日（水）
〔富山県南砺市〕